

とっとと通信

2025年9月29日発行

270号

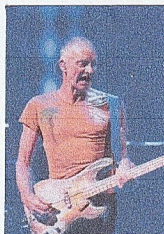
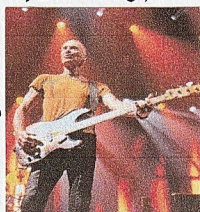
「とっとと通信」は
田舎に生きている
人々の生活や
ありさまをご紹介します。

こんにちは！平川です。秋分を迎えて、すっかり秋めいてきました。さて先日、ステイングのコンサートへ行きました。今回はそのレポートです。

コンサートレポート

先日、マリメッセ福岡へステイングのコンサートに行く。高校生の頃、友人の勧めでザ・ポリスを聞くようになった。そして妻と出会った30歳の頃、お互いステイングが好きになったことがわかった。ドライブ中によくかけていた。結婚式ではポリスの名曲「見つめていたい」を入場曲に使った。妻とは唯一共通で好きなアーティストなので、6年前も一緒にコンサートへ行き、今回で2回目である。さてマリメッセ福岡にはA館とB館の2つの会場がある。ステイングはB館で、A館はジェネレーションズだった。入口が向かい合わせにあり、並んでいる人たちを見ると、ステイング側は50代、60代の方ばかり。ジェネレーションズ側は20代の方ばかり。なんか親子くらいの差があつて「これじゃ

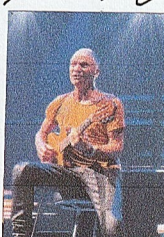
並ぶところを間違えてもすぐに気づくね」と二人で笑った。会場に入ると夫婦で来ている人が意外と目に付く。きっと私達と同じく、若かりし頃の思い出があるのだろう。さて今回のツアーはポリス以来のトリオ編成。大ホールにもかかわらず、シンプルでドラム・ギター・ベースである。無駄のない骨太なロックが聞けそうでワクワクする。すると会場が暗くなり三人が登場する。ウォーと歓声が起きる。ステイングは辛子色のTシャツを着ている。遠くからでもせい肉の無い、鍛えられた身体と分かる。身長もある。長いネックのベースがよく似合う。とても30歳には見えないうえにイケてるおじいちゃんだ。今まさに同じ空間に居ると思うだけで泣きそうになる。一曲目は「孤独のメッセージ」。一気に会場のボルテージが上がリ、総立ちにな



った。カセットテープで何度も聞いていた頃へ一瞬にタイムスリップする。両サイドにある大型モニターにステイングの顔がアップで映し出されると野太い歓声が上がると。驚いたのは、迫力ある歌声だ。6年前より、めっちゃくちゃ声が出ています。これが70歳の声量か？元氣すぎるだろ。さらには三人で演奏しているとは思えないほど、厚みのある音に圧倒される。また曲に合わせてライティングも素晴らしい。イングリッシュマン・イン・ニューヨークの時は、ステージ後方にニューヨークのビル群の影が映し出された。レゲエ調のリズムと相まって、何とも言えない雰囲気になった。ステイングと観客との掛け合いが起ころい。一体感最高潮となる。時折、大型モニターにベースを弾く指先のアップが映る。この音もベースで出しているのかと驚かされる。ほぼMCや休憩も無く、力強く演奏する。姿は圧巻だった。そして結婚式



で使った「見つめていたい」のイントロが流れると、あわててスマホで録画を始める人が沢山いた。世代を超えて愛される名曲である。そしてアンコールは2曲。まず「ロクサーヌ」47年前のポリスの代表曲。次にアップテンポの曲で盛り上がり、終わるのかなと思つたら、おもしろにベースを置き、ガッドギターで弾き語り。「ブラジルのイントロ」が始まった。一気に会場が静まり返る。暴力は何の解決にもならない。非暴力を訴えている曲である。37年前に書かれたこの曲は、9.11同時多発テロの時も、テレビで映像と一緒に流れていた。テロ事件や戦争があるたび、人々はこの曲に涙してきた。ステイングは世界中をツアーしながら、人々にこのメッセージを伝えていくのだらう。考え深い余韻を残し、コンサートは終了。ノンストップの11分間。あと10分はできる。また絶対に行く。



発行／有限会社アサム 平川雅樹
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
☎092-321-4001 ✉: hirakawa@asam.jp

・伊都倫理法人会ブログ : <https://itorinri.com/>